

JNNが 三陸臨時支局 を開設

星野氏を突き動かしした陸前高田市の津波後

発案者のTBSテレビ 星野取締役・報道局長に聞く



1980年 TBS入社、報道局配属
1991年 社会部デスク
1997年 7月 編成局編成部副部長
2000年11月 ニューヨーク支局長
2005年 4月 報道局編集センター長
2007年10月 情報制作局長（情報番組担当）
2010年 5月 報道局長
2011年 3月 取締役 報道局長事務取扱



三陸臨時支局のスタッフルーム

JNNとは、遡ること半世紀前の1959年に、TBSが21局と始めたニュースネットワークで、テレビ局の系列化の先鞭となった組織である。歴史あるJNNが宮城・気仙沼に三陸臨時支局を開設。5月1日から本格稼働に入った。臨時支局長はモスクワ支局長も務めたベテラン記者の龍崎孝氏だ。JNN三陸臨時支局の企画発案者である(株)TBSテレビ・取締役の星野誠報道局長に聞いた。(文:吉井 勇・本誌編集長)

「明らかに違う規模」 何をすべきか

星野報道局長の略歴を見て、やはりそうかと頷いた。2000年11月にニューヨーク支局長として2000年の大統領選を取材。翌年の9・11同時多発テロでは、いち早く現地からレポートしている。国内では、国鉄分割民営化と

いう日本経済の骨格を変えた民営化を追いかけ、1985年の日航ジャンボ機墜落事故、首都圏幼女連続殺人の宮崎勤事件、東京佐川急便事件・金丸元副総裁脱税事件など、経済問題から事件、事故、国際テロ事件の現場を伝えてきた歴戦の報道記者なのである。常に現場に身を置いてきた記者は、ある種の勘が働くと思う。人の表情はもちろん、

人の動き、建物や街全体の様子などから全身で感じる何か、である。少なくとも経験なき者には宿らない。

発災直後から三陸海岸を襲う津波の映像を見続けた星野報道局長は、翌朝の晴れわたった空の下に映し出された陸前高田の街——すべてを奪い取られ、瓦礫さえもない街の様相に、「これまでの災害とは明らかに違う。後々まで伝